宮城学院女子大学発達科学研究
2020. 20. 91-95

2018年度発達科学研究所・教育学会合同企画公開研修会報告
幸福の国デンマークの働き方に学ぶ

発達科学研究所所長　熊　坂　　聡

＜企画概要＞

趣旨：我が国は働き方改革を進めている。そこで、幸福の国として知られているデンマークの働く女性を講師に招いて、デンマーク人の働き方を学び、自らの働き方を考えるきっかけにする。

日時：2018年9月25日（月）

主催：宮城学院女子大学発達科学研究所
同教育学会

講師：エレン・フォグ・アナセン
老人ホームカスタニアヘーベン施設長
ヘレ・ヴァルビヤーン・クリステンセン
カスタニアヘーベン主任看護師
メッテ・ペダーセン・ビヤゴー
カスタニアヘーベン主任看護師

通訳：田口繁夫
デンマークに40年以上在住、学術翻訳や研究コーデイネートや学術関係通訳などを多数手がけている。

コメンテーター：天童睦子（本学一般教育部教授）

（メッテ　　エレン　　ヘレ　　田口）

＜研修会の趣旨＞

熊坂：発達科学研究所の所長と教育学会長をしている熊坂と申します。本日の進行を務めます。今、日本は働き方改革を進めています。その事を踏まえて「幸福の国デンマークの働き方に学ぶ」というテーマで、デンマークで専門職として働く女性3人をお招きしました。専門職として働く女性の仕事の仕方と生活の実際、そして働き方に対する考え方に焦点を当ててお話をしていただこうと思います。デンマークは、兵庫県と同じくらいの国土面積で、人口は約560万人と小さな国です。ドイツの北、スウェーデンの西に位置します。デンマークは2018年度の世界幸福度ランキングは第3位です。高福祉高負担の国として有名で、消費税が25％。給料の約半分は税金等で徴収をされる国です。その代わり医療費・出産費・教育費などが無料、失業した時も手厚い支援を受けられるという国です。デンマーク人は、「ヒュッゲ」という言葉を大切にしています。居心地の良い雰囲気、暮らし方というような意味になります。仕事と生活とのバランスが良好ということでしょうか。さて、日本の労働時間は週40時間ですが、デンマークは週37時間です。年間労働時間数は、日本が1710時間に対してデンマークは1408時間になります。年間の労働時間が日本よりも約300時間少ない国でどのような働き方をしているのでしょうか。では、3人から、デンマークでの仕事や生活の話を聞きましょう。

＜講演＞

エレン：今日は仕事と家庭生活をどのようにバランスをとっているのかに重点を置きながら話します。私はいわゆる老人ホームの施設長をしています。24歳の時看護学校を卒業し、看護師になりました。看護師になろうと決めたのは、人との関係が持てるような仕事がしたいと思ったからです。

ヘレ：私は主任看護師です。今の職場に移る前は、病院で仕事をしていました。看護師として通算

27年の実績があります。私が看護師になったのは母親の影響です。看護師の仕事が大好きです。色々な課題に挑戦し、それを解決することとても楽しいです。

メッテ：同じく主任看護師をしています。私は今54歳です。看護学校を卒業したのは30歳の時でした。

エレン：私はどんな職に就きたいかについてかなり迷った時期がありました。しかし、私の祖父は薬剤師で薬局を経営していました。母も薬局で仕事をしていました。父は医師でした。そんなことからやはり、家族に影響を受けたと思います。病院での看護師としての仕事は28年間です。病院では師長をしていたのですが、新しい挑戦をしてみたいと思って施設長になりました。管理者としていろいろな責任を持っていますが、施設のケアや運営に影響力を発揮出来ることやりがいを感じています。私は病院での看護師としての仕事の経歴が長いと申し上げましたが、その間、看護実習の担当教官として多くの若い看護師の学生達の指導もしてきました。そして今の職場に移る前には病院の老人科で仕事をして、老人に関する仕事に非常に責任と興味を覚え、求人があったので今の職場に転勤してきました。病院での看護師としての長い経験、また実習生たちの教育担当の経験、それが現在の施設でも十分活用出来ていると感じています。私は、今の職場で色んな楽しいことを学習し、良い経験が出来ていると思っています。

ヘレ：私も前の病院の老人科で長い間主任看護師をしていました。病院では主要的な立場になると管理的な仕事が多くなります。私は、もう少し看護師として現場で仕事をしたいと考えていた時に今の老人ホームの求人があって応募しました。プライベートの話題に変えたいと思います。私は2人の息子がいます。19歳と14歳の息子です。離婚して今シングルマザーで、息子達はまだ家に居ます。息子達は1週間ごと私の所に、そして次の週は父親の所にという形で2人を養育しています。普通のことです。現在こういう状況なので、私は子どもが家にいる1週間の間はもちろん仕事をしていますけども、出来る限りの仕事だけをして家に帰って子ども達の世話をします。そして次の週になると、1週間子どもがいないわけです。その間は十分残業を含めて仕事ができるので、そのようにバランスを取りながら仕事と家庭生活を両立させています。

エレン：私たちは非常にタイプの違う家族です。私も結婚していますが、女性と結婚しています。そして13歳の娘がいます。障害を持った子どもです。この子は特別支援学校に通っています。この子の産みの親は私の結婚相手なのですが、2人でこの子の世話をしています。私の結婚相手も看護師です。デンマークの週の労働時間は熊坂先生が37時間と説明しましたが、私達は管理職の仕事をしていますので、37時間以上の仕事をしています。夕方夜に行われる行事や会議に出席するので37時間を超えてかなりの時間数になります。

ヘレ：私は結婚しています。私のパートナーは男性です。そして15歳と17歳の男の子がいます。そしてデンマークではボーナスチャイルドというのも1人います。つまり私の主人が連れ子をして私と結婚したので共同で育ててきたのですが、今は25歳なので独立して生活しています。こういう子ども達をデンマークではボーナスチャイルドと呼んでいます。私は2人の息子がいると申し上げましたけれども、日本に行く前に息子に対して育児について日本では話すけれども、私の育児をどう思うかと一応聞いてみました。彼は、「お母さんはそんなに厳しいお母さんでもないね。でもちゃんと私達の面倒を見てくれる」と言っていました。私もそれほど規律に厳しい母とは思いませんが、愛情持って彼らのニーズを満たしている、そういう形で教育としつけをしていると思っています。基本的に私も私の夫も子ども達を信用していますから、かなり子ども達は自由に生活をしているのではないかと思います。その基本はやっぱり信頼で

す。子ども達には強要せず、やりたいことをやるように言ってきました。ただ、小さい頃水泳教室には小さい頃に通わせました。そして体を動かすことが非常に重要だと私も夫も思っていますので、子ども達には毎日運動するようにしつけてきました。今は2人ともサッカーに夢中です。

メッテ：私も2人の息子がいますけれども、2人の息子の性格が違うんですね。一人の子はちょっと内気で言ってみれば臆病。ですから結構押してあげないといけない面があって、かなり彼が私に抗議したことがあります。今はそういうことは無くなりましたが。反面もう一人の子はちょっと我武者羅過ぎてやり過ぎの傾向があるので、かなり制限をかけることもありました。私が子ども達に教えたことの一つとして非常に重要だと今でも考えていることは、子ども達に目を開かせて世界を世界そのものとして受け入れようということです。つまり世界には色んな人がいるんだよ、身の回りにも色んな人がいるんだよ、みな人間で同じ価値の人だよ、あなたと同じ人だよということを小さい頃から子ども達に教え、差別をしないように区別をしないように、そして世界に広く心と目を開けるようにというように言い聞かしてきました。

エレン：私達にとても重要なことは職業生活と家庭生活が上手くバランスが取れていることだと思います。この2人の同僚は部下の人達にも同じようなことを伝えて、出来る限り家庭でも職場でも上手く生活が出来るようにと話しています。私達の職場では40人のスタッフがいますが、そのうちの男性が5人しかおらず、女性が多い職場です。女性のスタッフのうち、多くのスタッフが子どもを持っています。家庭生活も非常に重要であることも当然私達も認識しているので、家庭での生活と職場での生活が両立できるようにしています。新しいスタッフを雇用する時も、希望を真摯に聞いて彼らの希望に沿えるような勤務体制が組むように努力して、家庭生活と職業生活のバランスが取れるようなサポートをしています。例えば勤務時間の調整は、個人の家庭生活に合わせるような形で勤務が出来るように出来る限りします。スタッフが喜んで職場で仕事が出来るような環境が一番重要ですね。Happyで楽しそうに仕事をしていると、入居しているお年寄りにも、他の同僚にも良い影響を及ぼします。基本的に一番重要なことは、仕事でどのような利益を私達自身が得るのか、どんな価値観で仕事をしているのかだと思います。どうして私はこの職場で仕事をしているのかということを常に頭に置いていることが重要だと思います。私が親として子どもに自分達の経験を話すことは重要ですが、それを子どもに押し付けるのではなく、自分たちが自分たちの経験を通して自分たちなりの意味や価値を見つけ出す事が必要です。基本的に重要な事を教え、それ以上は子ども達に自分達で経験させ、自分なりの考え方を出してもらうということが重要な事だと思います。また、自分の子ども達を知るために子ども達の友達を家に招待することも重要だと思います。子どもがどういった関係性を持っているか、親として知ることは重要だと思います。その事により、自分の子どもに対する親としての理解が深まるし、子どもも自分なりに自分の友達を通じて親に自分のアイデンティティということを伝えることも出来る場かもしれないからです。職場でも自分の同僚と良い人間関係を作り、それを家庭生活の中に活かすということもとても重要だと思います。人生観等について我々3人は、いろいろな意味で同意出来る部分が沢山あると思います。私たちの職場の同僚達も多くの部分で価値観や人生観を共有していると思います。私たちの職場では4つの理念に基づいて仕事をしています。専門性、責任感、尊敬心、最後には信頼です。この4つの価値観をベースに実際の仕事は行われます。最初から全ての新入社員や職員がこれを理解してくれるわけではありませんが、仕事を通じて具体的に分かってもらって良いチームを作るようにしています。しかし、残念ながら私たちの

そういった考え方や理念がわかって貰えないという人もいます。そういう場合には申し訳ないけれども、辞めてもらうこともあります。入居者にとって私達の理念がわかって貰えないスタッフがいるということは利益ではないと思うからです。デンマークでも、バーンアウト症候群とか、ストレスを感じている人が少なからずいます。もちろん職場では自分のベストを尽くして出来る限りいい仕事をしようということは当然必要です。しかし仕事が終わって家に帰って余暇時間または自由の時間は全く仕事と関係なく、全く仕事を忘れて余暇時間を過ごす、定時生活は非常に重要だと思います。デンマークでも労働環境が非常に重要だと言われています。これはただ物理的な労働環境だけでなく、より重要なのは、精神的な労働環境と言われています。職場の人間環境で難しい点はないか、誰かいじめたりしていないか、精神的な労働環境をよりよくする、そこが管理職に就いている私たちの重要な業務かなと思います。スタッフの一人一人がそれぞれ違う様々なニーズを持っています。そういったニーズに対して私たちは応じるようにしていますが、同時に我々は管理者として当然職場でやってもらわなければならない仕事・課題がたくさんあります。その課題に対しても当然厳しい要求を出します。できる限り職員の個人的なニーズに考慮しながら職場で最善の仕事ができるように、そういった後押しを我々はしています。いわば雇用者である我々にとって入居者のウェルビーングが最優先ですけれども、その次にほぼ同じぐらいに大切なのがスタッフのウェルビーングです。この両方がないと良い職場とは言えません。この二つの面を考えてみても私たちの職場はとってもいい職場ではないかと自負しております。皆さんもどんな所か見たかったらぜひ訪問してください。

質問

学生：三人は残業の多い日本で仕事したいと思いますか？

エレン：自転車で通勤できないので困りましたね。(笑)デンマークの残業についてお話ししましょう。私たちの職場は24時間の職場です。何時になったら基本的な仕事が終わるのではなく入居者のところで生活しているわけですから、時によっては勤務時間が終わってもケアをしなくてはいけないこともあります。基本的にちょっとした残業で体調を崩したりしなければ、少しぐらいの残業は悪いことではないし、私たちもしております。

学生：日本人は転職することに抵抗を示す方が多いですが、皆さんは抵抗ありますか？

ヘレ：デンマークで転職することは悪いこととは思われません。ある程度の期間一つの職場にいて転職するという事はかえってその人は成長しているんだろうなとみられています。

熊坂：デンマークは人生のうちに７回転職すると言われています。（参加者からどよめき）ヨーロッパで一番多いんです。それは手厚い社会保障によって保証された人生の選択肢です。

学生：老人ホームの施設長に看護師がなるというのは日本にはないという印象なのですが、デンマークでは看護師さんが施設長になるのが文化的に普通なのか、それともエレンさんが老人病棟に長くいたことや経歴がたくさん豊富であることから実力でなっているのか知りたいです。

エレン：稀ではありません。老人ホームはデンマークでは95％の施設長はナースです。

学生：話の中でその人にとって良い働き方を目指しているという事を話されていたのですが、男性の育休や育児状態について教えてください。

エレン：育児休暇を取る男性はどんどん増えています。デンマークではほぼ100％に近いほどの女性が社会進出して仕事に就いています。ですから、男性も家事をはじめ家庭に関わる全てのことに参加しないと生活が成り立っていかない。ですから食事を作ったり、買い物をしたり、おしめを変えたりというようなことに関しては男女が大体シェアしていることが一般的になりました。ただ男性は食事を一種類しか作りません

ね（笑い）。でも掃除がとっても上手です。（笑い）完璧に掃除をします。

学生：プライベートを大事にしているという事を伺ったのですが、休日はどのように過ごしていますか？

ヘレ：職場にいない時は全く仕事を考えないようにしています。料理をすることが好きなので料理をするのもとても楽しくて、あるいはパンを焼いたり、ケーキを焼いたりするのも大好きです。あるいは友達と会食したり、町に行ったりします。

メッテ：私は水泳が好きなので、よく水泳に行きます。冬は寒中水泳もやって氷を割って冷たい水の中に飛び込みます。それから映画もしょっちゅう見に行きます。それから兄弟とも仲がいいのでよく会います。

エレン：私はランニングが好きなのでよくジョギングをします。我々は別荘を持っていて仕事がないときはその別荘でゆっくりと土日などに過ごしています。

学生：有給休暇をとる基準は何ですか。日本人は有給休暇を取る時に罪悪感を持ちやすいのですが、デンマークの人はどうですか。

エレン：休暇は勤労者に与えられた権利です。反面、休暇は使用者が勤労者にあげなくてはならない義務ですから全く罪悪感はありません。夏休みは大体三週間はとるのは普通です。夏休みの三週間をみんな一緒に取るのは職場が困りますから、かなり前から計画を立てて夏休みのスケジュールをとっています。

熊坂：時間になりましたのでここで終わりにします。学生さんから積極的に質問があってとても良かったと思います。さて、デンマークの人にとって「一生懸命働く」とはどういうことだったでしょうか。どうも、自由時間を削って仕事をすることでなさそうでしたね。エレンは「働く意味」を明確にすべきだと言いました。その意味は、自分は何を目的に働いているのかという問いを忘れないということだと思います。本日は参加いただきありがとうございました。